第１回宇宙輸送システム部会　議事要旨

１．日時：平成２５年３月２８日（木）　１６：００－１８：３０

２．場所：内閣府宇宙戦略室５階会議室

３．出席者
（１）委員
山川部会長、白坂部会長代理、緒川委員、木内委員、鯨井委員、中澤委員、松尾委員、薬師寺委員
（２）事務局
西本宇宙戦略室長、明野宇宙戦略室審議官、國友宇宙戦略室参事官、山田宇宙戦略室参事官
（３）オブザーバー
山崎宇宙政策委員会委員

４．議事要旨
冒頭、委員紹介の後、山川部会長より、部会長代理として白坂委員が指名された。

（１）内閣府における新たな宇宙開発利用の推進体制について
事務局から資料３に基づいて説明を行った。

（２）我が国宇宙輸送システムを検討する視点について
（３）宇宙輸送システム部会の今後の検討の進め方について
上記の議事について、事務局から資料2、4、5に基づいて説明したところ、以下のような意見があり、資料５「宇宙輸送システム部会の今後の検討の進め方（案）」については、部会として了承された。

〇輸送システムの在り方を検討する上では、輸送サービスを行うために輸送システムがあるという認識とユーザからの視点が重要である。

〇ロケット開発を含めて、長く続いた事業や制度を今までとは違う発想で考え直す機会が必要。新たな宇宙政策の体制が整った今がまさにその時である。

〇５～１０年を越えた中長期の視点で検討するべき。

（４）海外主要国の宇宙輸送システムの動向について委員からの情報提供
木内委員、鯨井委員、中澤委員、緒川委員からそれぞれ資料6－1、6－2、6－3、6－4について説明し、以下のような意見があった。

〇固体ロケットの世界的な需要が限定されている中で、各国が固体ロケットの開発に取り組んでいる点を注視すべき。

〇各国が開発と運用を交互に繰り返している中で、我が国は１５年以上、本格的な開発を行っていない点を認識すべき。

〇我が国のロケットは信頼度や技術評価は高いが、認知度が低いのが課題。ファルコン９は営業努力もあり認知度が高い。信頼度の点で打上げ回数が少ない点も我が国のロケットの課題。

〇米国の宇宙ベンチャーの集積地である「モハベ」のような、宇宙開発特区の検討が必要。

以上